



第二課
第一課



官房殿

山李

五月

部 部

(別冊添)

0447

海軍軍令部

(終)

海

53

秘

本文六枚
内容

研究實驗成績報告

其 十 一

(軍鳩實驗研究)

昭和七年四月二日官房第一二一三號訓令

昭和七年十一月三十日

整理法
本書用者上
八焼却相成度

横須賀防備隊

0448

送 附 先	部 数	送 附 先	部 数
軍令部二班長	1	佐世保防備隊司令	1
軍務局二課長	1	舞鶴防備隊司令	1
教育局二課長	1	大湊防備隊司令	1
航空部總務部長	1	鎮海防備隊司令	1
吳鎮守府參謀長	1	馬公防備隊司令	1
佐世保鎮守府參謀長	1	横須賀海軍航空隊司令	1
大湊要港部參謀長	1	霞浦海軍航空隊司令	1
舞鶴要港部參謀長	1	海軍兵學校教頭	1
鎮海要港部參謀長	1	第一遣外艦隊參謀	1
馬公要港部參謀長	1	横須賀海兵團長	1
吳防備隊司令	1	海軍通信學校教頭	1

0449

研究實驗場所

横須賀 吳 佐世保 舞鶴 大湊
鎮海 馬公 各防備隊 横須賀
霞浦 西航空隊

訓令通牒 區分

昭和七年四月二日
官房第一二一三號訓令
昭和七年四月二十六日
横鎮第五五號ノ六
實驗研究計畫

研究實驗擔任官

海軍少將實驗研究委員

(報告作製者)

委員長 海軍少將柴山司馬
擔任委員 海軍少佐緒方勉

0450

舞防	佐防	兵防	機防	飼育
六四	一七	八三	二九〇	總鳩數
晝間鳩 夜間鳩	晝間鳩 夜間鳩	晝間鳩 夜間鳩	晝間鳩 夜間鳩	應供鳩數
大尉 大曹長 兵士	大尉 大曹長 兵士	小佐 特小尉 兵士	小佐 特中尉 兵士	從事員
飼糧	飼糧	飼糧	飼糧	使用鳩舍並需品
一	一	一	一	三
橫防	二海軍	用需品	表設定	記事

海軍、鵠實驗研究報告
其十一
(昭和七年十月三十日)

軍、鵠實驗研究部隊、現狀
昭和七年十一月一日現在ニ於ケル各隊軍、鵠數從事員並、鵠舎
狀況等次、如シ

二、各隊ニ於ケル軍鴉通信ノ現状

昭和七年七月ヨリ同年十月ニ至ル毎月通信回数
如ク其成績ハ一般ニ良好ニシテ能ク通信ノ目的ヲ達成ス

大防	鎮防	馬防	横空	霞空
八〇	五四	八七	八七	五八
晝間鴉 夜間鴉	晝間鴉 夜間鴉	晝間鴉 夜間鴉	晝間鴉 夜間鴉	晝間鴉 夜間鴉
五〇	五四	四九	三一	四一
特中尉 下士官 兵	大尉 兵曹長 兵	大尉 兵曹長 兵	小佐 特中尉 兵	少佐 兵
一 一 二	一 一 四	一 一 四	一 一 四	一 一 二
仮設鴉舎 同定鴉舎	仮設鴉舎 同定鴉舎	仮設鴉舎 同定鴉舎	仮設鴉舎 同定鴉舎	仮設鴉舎 同定鴉舎
二 一	二 一	二 一	二 一	二 一
飼糧電品ニ関シテハ同	飼糧電品ニ関シテハ同	飼糧電品ニ関シテハ同	飼糧電品ニ関シテハ同	飼糧電品ニ関シテハ同
石	石	石	石	石

三、研究經過並所見

(一) 防備隊ニ於ケル軍艦利用法

(一) 軍艦使用範圍

本項八累次、研究報告ニ詳述セル如ク防備隊、通信

諜軍港要港、通信機関トシテ活用セリ

附属船艦ヨリ主副通信

附属艦艇ヨリ補助通信

鎮守府要港部麾下一般ニ於ケル小艇艦ヲ遠隔ノ地ニ派遣

月	隊	横	防	吳	防	佐	防	舞	防	大	防	鎮	防	馬	防	横	空	霞	空	計
七	一	七	九	四	五	七	二	八	一	三	三	九	六	八	一	八	七	一	二	七
八	一	三	〇	一	八	二	二	一	三	一	〇	二	七	三	四	三	四	二	〇	九
九	九	九	一	三	一	九	一	五	四	五	一	七	三	二	四	二	四	一	三	五
一〇	七	二	二	四	四	一	三	三	三	三	一	一	八	二	四	二	四	一	九	四
計	二	四	四	一	三	一	五	三	三	三	一	一	八	二	四	二	四	一	九	四

スル際、通信

同右ニ於ケル陸上派遣員ヨリノ通信

是等ハ無電装置、有無ニ拘ラス軍情ヲ携行スルコトニ依リ極
テ簡單ニ通信ノ目的ヲ達成スルコトヲ得

(二) 軍情戰術的價值

研究報告其十二掲記セル如ク軍情通信ハ其性能上分秒ヲ争フ
洋上ノ戰略戰術的通信法トシテ有利ナルモノニアラサルハ勿論
ナリ。然レトモ本通信ハ又他種通信法ノ企及シ能ハサル長所
特徴ヲ有シ科學的通信法ノ缺陷ヲ充足シ得ルモノナリ。而シテ
特徴ノ主ナルモノヲ擧グレバ

通信法極メテ簡單ナリ、即チ發信ニ何等ノ設備ヲ要セス又發信
者ニ何等專門的技術ヲ要セス。誰人ニモ使用シ得
精細ナル字表略圖及長文ノ信文ヲ輸送シ得ル

隱密ニ發信シ得ルヲ

混信防信ノ憂ナシ

通信時刻ノ制限ヲ受クルコトナシ

火急ノ場合(移動無線電信機ヲ搭載スル暇ナキトキ)派遣船

艇等ノ通信ニ適ス

是レ平時ニ於テ軍艦ヲ携行セル小船艇カ無電ノ有無ニ拘ラス

能ク之ヲ利用シテ通信ノ目的ヲ達成スル所以ナリ殊ニ有事ノ

際通信杜絶シタル場合港灣防禦ノ船艇ヨリノ連絡トシテ唯一

ノ通信機關タルヘシ

以上ハ従来ノ研究報告ニ於テ屢々高唱セル所ナリ更ニ反覆

記載セリ

(三) 隊ヨリ出動船艇ハ通信法

本研究ハ米々實驗中ニテ結論ヲ得ルニ至ラサルヲ昭和六年度

以降、横須賀防備隊ニ於テ實驗セル材料ニ依リ本通信法ノ成否ヲ推斷スレバ大凡左ノ如シ

鳩ノ性能上一週間中少クモ二日以上鳩舎搭載艀作業地ニ在ルヲ要ス從ツテ平時此ノ種ノ通信達成ハ相當難事ナリ有事ノ際、濟口哨戒等ノ任務ニ在ル艀駛（鳩舎ヲ搭載ス）ハ通信法トシテハ確實ニ其可能性ヲ認ム
確實ナル通信距離ハ五十浬以内ナリ

(四) 附屬艀駛艀ヨリノ通信ニ於ケル無電ト併用法

前項ニ於テ縷述セル如ク軍鳩通信ハ其取扱極メテ簡單ニシテ誰人ト雖使用シ得ルノミナリス且多數ノ信文、圖表等ノ發送ニ適スル莫等ヨリ之ヲ無電ト併用シテ幾多ノ利便ヲ感スルモノナリ即チ無電ニ於テ簡單ニ發信スルト共ニ軍鳩ヲ利用シテ精細ニ通信スルヲ得レハナリ殊ニ直接無電受信裝置

無キ部隊ニ有リニハ近距離ニ於テ無電ト併用スルトキ軍情通信
成績ノ屢々無電ヲ凌グコトアルハ實例ノ證スル所ナリ。而シテ能ク
訓練セラレタル優秀軍情ノ近距離ニ於ケル通信精度ハ殆ント百
ナリ

五、平時戰時所要軍情數ノ研究

防備隊所要應役軍情數(基礎訓練ヲ終了レ通信ニ使用シ得ル軍情ヲ
指スモノニシテ總數ニマラス)ハ現今基礎機關ハ二五〇羽其他ハ
七〇羽(吳佐)乃至五〇羽(前記以外)ト定メラレタルモ各種演習並戰鬪
通信ニ於ケル實驗ニ徴スルニ右ハ平時所要數ノ最小限度ナリ
戰時ニ到リテハ所屬船隻數及軍情ノ休養等ヲ考察シ概ス
其ノ二倍乃至三倍ヲ要スルコトハ各隊ノ一致セル意見ナリ
口、防備隊ニ於ケル夜間軍情ノ養成訓練法
ハ海軍ノ軍情能力向上法

右ニ項共累次ノ研究報告ニ詳述セル所ナルモ更ニ附言セン
 (一)夜間鴉ノ養成訓練ハ我海軍ニテハ大正十三年ノ春當時軍
 鴉基礎機関アリレ横空ニ於テ飼育セルヲ嚆矢トシ尔來長足
 ノ進歩ヲ遂ケ現今各隊悉ク之ヲ飼養スルニ至リシス今從
 來難事トセラレタル夜間鴉通信モ我海軍獨創ノ養成訓練
 法ニヨリ解決セラレ從來晝間ノミ使用シ來レル鴉モ晝夜ノ別ナ
 使用シ得ル事ヲ立證セラレ使鴉術上一大革命ヲ惹起スルニ至
 レリ然ルニ各隊共經費小額ナル上軍鴉員手不足ナル爲折
 角得タル研究事項モ寶ノ持腐ニ等シク鴉ノ全能ヲ發揮セシ
 メ得サル狀態ニアルハ甚タ遺憾ナリ
 尚大正十二年以來基礎機関ニ於テ專ラ軍鴉實驗研究ニ從事
 セル横須賀防備隊軍鴉實驗研究委員石井特務中尉編纂
 夜間鴉(晝夜鴉)養成法ヲ附ス

(二) 海軍々艦能力向上法ハ一面ニ於テ斯術ノ鍊達ヲ期スルト共ニ他面ニ施設ノ完全ヲ計ルニ有リ是レ基礎機關ニ於ケル艦通信カ常ニ他隊ノ三倍乃至五倍ニ達スルヲ見テ天明カニシテ今後一層他隊ニ於ケル施設ヲ完備センカ海軍々艦能力ハ一段々向上發達ヲ見ルト期シテ疑ハサル所ナリ

(三) 荒天時ニ於ケル對抗カ養成

艦通信ノ最モ障害トナルモノハ氣象影響ニシテ就中視界不良ト豪雨ハ最モ恐慌ヲ感スルモノナリ蓋シ之等ハ艦ノ歸巢性根源ノ主要事項タル肉眼視カヲ遮リ刺ヘ甚シク活動意志ヲ削減スル恐れアレハナリ而シテ前者(視力關係)ハ人爲的ニ如何トモスヘカラサルモ後者(活動意志ノ奮起)ハ訓練ヨリ効果ヲ收メ得ルモノニシテ横須賀防備隊ニ於ケル實驗ノ結果ニ依レハ荒天訓練ヲ課セル軍艦ハ次ノ場合ニテモ能ク歸巢シ通信ノ目的

ヲ達成ス

小雨雪及霧中(濃霧ニテハ歸巢困難)ニテモ熟地ニ有テハ能ク
百斤以内ノ通信ニ適ス

右、場合夜間ヲテモ能ク三十斤附近ヨリ歸巢ス

降雨斷續視界相當良好、場合八百五十斤以内ノ通信ニ
何等懸念ナク使用シ得

風圧ニ對シテハ十五秒米突以内ノ逆風ニ對抗シテ歸巢スル能力
ヲ有ス

以上、訓練ハ開始後少クモ六ヶ月ヲ要シ最初ハ先ツ荒天
時ニ於ケル展望(軍情ヲ展望台上ニ曝ス)次テ舍外飛翔ヲ課シ
然ル後放鴈訓練ニ及ブ如ク即チ易ヨリ難ニト漸ク進テ實
施スルトキハ次第ニ對抗力ヲ増加シ所期ノ目的ヲ達
成シ得ルモノナリ

二海軍々艦ニ關スル制度設備並諸器材ノ研究改善
 本往復通信ノ研究
 へ軍艦術通信教育

ト各軍艦實驗研究廳ニ對スル軍艦ノ補給

右四項ハ何レモ研究報告其十二詳述セルモ尚其ノ主要事項
 ニ就キ重キ所見ヲ述ブレハ次ノ如シ

(一)海軍々艦ハ既ニ研究ノ域ヲ脱シ全ク實用期ニ入レリ故ニ軍艦
 實驗研究ノ名ヲ瘞シ經費モ經常費ヨリ支出スルコト、レ軍
 艦中樞機關ヲ通信學校ニ移スヲ理想トスルモ過度的
 手段トシテ暫ク横須賀隊艦隊ニ存置シ研究並教育機關
 トシテ適當ノ定員(進士官以上一、下士官二、兵八)ヲ設置シ他
 實施部隊ノ軍艦員ヲ下士官一、兵四トシテ配員スル適當トス
 (二)軍艦員ノ進路ヲ開拓スルヲ要ス即チ從事員ノ進路ヲ開拓スル

ニアラスンバ優秀ナル技術ヲ保持セシムルニト因茲テリ殊軍鴉負ノ職務ハ常ニ頭脳鋭敏ナル生物ノ心理ヲ觀察シ且之ヲ取扱ニ慣熟スルヲ要スルヲ以テ獨立シテ鴉舎ヲ管理シ得ル道ニハ相當長年月連續勤務ヲ要ス故ニ研究報告其十二述ハタル如ク各隊軍鴉員ヲシテ下士官ニ任用ノ道ヲ講スルヲ要ス

(三) 各飼育籠ニ需品定額表ヲ制定シ(軍鴉等特種ノモノヲ除キ直接當該軍需部ヨリ供給ヲ受ケル如クナスヲ要ス。又此際各飼育籠ニ對シ軍鴉訓練用トシテ貨物自動車ノ設定ハ極メテ必要ノ事項ナリト認ム

(四) 本年度經費ハ總額五千百赤ニシテ現在ノ軍鴉ヲ維持センカ爲己ムヲ得ス訓練費及鴉舎並ニ器材引換費ヲ極限シ以テ現状維持ニ努メツ、有狀況ナリト以テ次年度經費ハ鴉舎器材等ノ改修ヲ考慮シ約二千円ノ増額ノ要アルモノト認ム

(終)

昭和七年十一月

夜間鳩(晝夜鳩)養成法

横須賀防備隊

本附録ハ横須賀防備隊軍鳩實驗研究委員石井特務
中尉ノ編纂ニナルモノナリ

夜間鳩（晝夜鳩）養成法

緒言

理想ノ通信ハ時刻ニ制限アルヲ許サス是レ遂ニ夜間鳩（晝夜鳩）ノ出現ヲ餘儀ナクセシメタル所以ナリ然レトモ凡ソ鳥獸ハ天性ニヨリ自ラ活動ノ時機ヲ定メテ食ヲ漁リ歡樂ヲ貪リ而シテコノ時機ヲ過クレハ安全ナル位置ニ退避シテ専ラ休養シ以テ次回ノ活動ニ備フルヲ常トス鳩ハ生來活動性ヲ専ラ晝間ニ保持シ來レルモノナルモ鳩特有ノ方向感ヲ利用シ人爲的ニ活動性ニ変化ヲ促シ而シテ健康上欠クヘカサル條件（特ニ日光浴ト休養）ヲ褫奪セサルトキハ晝夜ヲ通シテ能ク活動セシメ得ルモノナリ以下ニカ養成法ヲ述ヘン

夜間鳩ノ養成ハ高等鳩術ニ屬シ飼育管理者ノ智識

體驗茲ニ連綿不斷ノ努力ヲ必要トスルコト各種鳩舎訓
 練中随一トス蓋シ現在ノ鳩（未夜間訓練）ハ暗夜飛
 翔ニ對スル充分ノ視力ヲ有セス、活動意志モナク而モ自
 己保安上ヨリ夜間棲息所ヲ離ル、コトニ對シ極度ニ怖
 氣ヲ生スル等之等先天的ノ性質ニ對シ人爲的ニ變化ヲ
 促シ遂ニ夜間歸巢ノ習慣ヲ作爲スルモノナルヲ以テナリ故
 ニ之ヲ養成ニ當リテハ能ク其ノ要所ヲ捕捉含味シ適切ナ
 ル計畫ト晝夜不斷ノ努力ト相俟テ始メテ目的ヲ達成
 シ得ヘキモノニシテ一度其方法ヲ誤ランカ徒ラニ鳩ニ勞苦
 ヲ強ヒ過度ノ失蹤ヲ招キ遂ニ目的ヲ達成シ得サルヘシ本
 鳩ヲ養成セントスルモノハ特ニ此點ニ留意ヲ要ス
 一、夜間鳩養成上最モ樞要ナル事項
 （一）夜間ニ於ケル方向判定勵發

先以左記事項ニ就キ考究スルヲ要ス
 鳩ノ方向判定、根據ニ就テハ今尚種々ノ論說アルヘキ
 モ卓越セル肉眼視力ト記憶力トカ其ノ主因ナルコトハ
 爭フヘカラサル事實ナリ。然レトモコノ卓越セル肉眼視
 力モ能ク暗夜ヲ透視シ得ルモノニアラサルコトハ諸種ノ實
 驗ニヨリ明カナルト共ニ又夜間ト雖モ全々視力ヲ失フ
 モノニモアラス。明暗度ノ如何ニヨリテ視力ニ差異ヲ
 生スルコト人間ト大差ナキカ如シ。鳩カ夜間飛翔中又
 ハ歸着ノ際鳩舎又ハ他ノ物体ニ衝突スル例少ナカラサ
 ルモ又等ハ不充ナル視力ト情勢トニ因ルナラン而シ
 テ一方暗夜極ノテ靜ニ鳩体ノ近邊ニ手々他ノ物
 体ヲ近ワクレハ能ク之ヲ觀知シ小サキ指先ニテモ殆
 啖打ヲ誤ラス又夜間低空飛翔（放鳩直後ニ於テ最モ明瞭）

ニ於テ巧ニ架空線ヲ避クル等ノ事實ハ暗夜ニ於テモ尚
 視覚ニ存在ヲ立證シ又鳩舎ニ燈光ヲ照スレハ夜間ニ
 於テモ能ク粟粒ノ如キ飼糧ヲモ啄取シ得ルモ燈光ヲ
 滅スレハ之ヲ爲シ得サルハ光明ト視力トノ關係ヲ如實
 ニ示スモノニシテ月明時ニ於テル歸巢成績（殊ニ方向
 判定）カ闇夜ノソレニ比シテ一般ニ良好ナルコトモ亦右ノ
 事實ヲ裏書スルモノナリ故ニ鳩ノ夜間視力ノ結論
 シテ『鳩ハ夜間ニ於テモ全々視力ヲ失フモノニハアラスシテ
 畧々人間ト等シク其大小ハ明（暗）度ノ大小ニ正（反）比
 例シ且ツ空中飛翔ニ依リ視力ニ依ル物体ノ認識ニ
 對シテハ人間以上ニ有利ナルモノナリ』ト言フヲ得ヘシ
 透視鏡ニ遠距離物体ノ認識ハ上空ヨリ行フコトノ有利
 ナルコトハ茲ニ説クマテモナク殊ニ夜間村落市街等ニ点

在セル無數ノ燈光並山岳起伏ノ狀態及水陸境界
 線等ノ認識、容易ナルコトハ地上ニ於ケル想像以上ナ
 リ（筆者ハ鳩ノ夜間歸巢研究ノ爲屢々飛行機
 上ヨリ實驗ス）是レ鳩カ夜間ニ於テモ尚歸巢目標
 コ捉ヘ得ル所以ナリトス
 以上ノ説明ニ依リ鳩ノ夜間ニ於ケル方向判定力何ニ
 ヨリ行ハル、カノ資料ヲ得タルナランモ素ヨリ活動性
 ヲ畫間ニ保持シ來レル鳩カ最初ヨリ速ヲ覚クスル能
 ハサルヤ勿論ナリ故ニ之カ勵發訓練ニ當リテハ先ッ
 易ヨリ難ニ近ヨリ遠ニト漸ヲ追ヒ決シテ一舉ニ無
 理ノ注文ヲ強フルヘカラス而シテ鳩ニ晝夜ヲ通シテ
 努メテ多クノ練習機會ヲ與ヘ以テ日中の確ニ地
 物ヲ觀察ヒシムルト共ニ一面暗ヲ透シテ茫然ト導キ

出ワル物体及日中ハ影タニモ現ハサヌ市街、村落、海岸（魚船）等ノ燈光又ハ芝等ノ光芒ヲ認識セシメ何レノ位置ナルカラ判断記憶セシムルコト最肝要ナリ

(二) 夜間活動意志誘起

鴉ハ生來頗ル臆病ニシテ殊ニ夜間ハ自己保安ヨリ生スル怖氣一層強烈ナリ故ニ夜間活動セシメントハ第一ニコノ怖氣ヲ除去セサルヘカラス然レトモ一時ニモ強フルコトハ禁物ナリ是レ反テ恐怖心ヲ増大セシムル惧アレハナリ故ニ其方法トシテ日出没時刻附近ヨリ漸進的ニ夜間ノ展望、舍外飛翔等ヲ課シ漸ク之ニ慣ル、ニ從ヒ進ンテ夜間放鴉訓練ヲ行フモノニシテコレ亦必ス漸進的ナルヲ要ス即チ夜間

出舎ヲ行フ場合ハソレ以前ニ於テ少ナクトモ一時間
 以上前進セル展望ヲ終了シ舎外飛翔放鳩訓
 練等ニ於テモ之ト同様ニ各前段ノ訓練ハ後段ノ
 訓練ヨリ一段前進シテ實施シ置クヲ要ス又深夜
 訓練ハ先以テ月明時ニ於テ施行シ漸次闇夜ニ
 及ボスモノトス
 斯ノ如クスルトキハ次第ニ夜間ニ對スル怖氣ヲ云
 リ活動意志ヲ誘起シ遂ニ習慣性ヲ作爲スルニ
 至ルモノナリ

(例)

午後九時放鳩訓練ヲ實施する場合

- (イ) 午後十時以後ニ於ケル舎外飛翔完成
- (ロ) 午後十一時以後ニ於ケル展望完了

(三) 鳩ノ健康保持

夜間鳩ハ晝夜共ニ活動ヲ強ヒラルハ以テ一般晝
 間鳩ニ比シ負荷過重ナリ故ニ之ヲ健康保持ニ
 對シテハ一畧考慮ヲ要ス之ヲ爲メハ鳩舎施設
 ノ完備ト鳩ノ休養トニ意ヲ注キ且ク蕃殖及
 年齢等ニモ制限ヲ付スルヲ要ス實驗上夜間
 鳩トシテ最適良ナル年齢ハ當歲ヨリ三歳迄ニ
 シテ四歳以上ノ鳩ハ体力上夜間鳩トシテ過激ナ
 ル活動ニ服セシムルニ適當ナラスハ晝間鳩トシテハ
 六七歳迄使用ニ得ル蓋シ夜間鳩ハフスボーワマン
 ノ如ク特ニ發刺タル意氣ト頑強ナル体力ヲ必
 要トスルモノニシテ從テ自ラ年齢ニ制限ヲ付ス
 ルヲ免カレサルナリ

(四) 従事員ノ努力

夜間鳩ノ訓練ハ實ニ晝夜ヲ通シ連綿不斷ノ實施
ニヨルニアラサレハ効果ヲ收メ難シ故ニ従事員ノ苦心
努力ハ誠ニ想像以上ニシテ其心持ハ恰モ赤子ヲ
抱ク慈母ノ心理ニモ似テ實ニ四六時中鳩糞ノ
臭氣消ユル暇ナク鳩ト起臥ヲ共ニシテ飼育管
理ノ責ニ任スルモノナリ

斯ノ如ク夜間鳩ノ養成訓練ニハ之ニ要スル設備、智
識及従事員ノ甚大ナル努力ヲ要スルモノナルモ其代
償トシテ訓練前迄一步モ夜間活動シ得ザリシ鳩カ
暗夜ニ海越エ山越エテ歸巢スルニ至リシトギノ嬉シ
サハ獨リ体験者ノミ味ヒ得ルモノナリ近時夜間鳩ノ
養成ハ我海軍々鳩飼育部隊ノ大部ニ亘リ實施

ヲ見日ト共ニ益々要視セラルニ至リシコトハ實ニ
 鳩通信革命の進步ニシテ誠ニ同慶ノ至リナリ
 以上述ヘタルコトハ實ニ夜間鳩養成ノ要訣ニシテ管
 理者ハ能ク之ヲ含味熟慮ノ上訓練ヲ實施スル
 ヲ要ス

ニ施設

(一) 鳩舎位置

高燥、周囲閑路閑静ニシテ保健ニ適シ舍外飛
 翔及歸巢等ニ障害ナク且ワ燈光ノ影響少
 シキ場所ヲ可トス故ニ海邊、丘上又ハ屋上等ニ設
 置セハ可利ナリ尚架空線ハ本鳩舎ノ取モ忌ム
 所ナレハ努メテ之ヲ避クルヲ要ス

(二) 鳩舎

- (イ) 東南面ニ特ニ面積豊富ナル窓ヲ設ケ採光ニ便ス(採光装置ハ晝間鳩舎ニ比シ一層考慮スルヲ要ス)
- (ロ) 鳩室側ニ鳩兵控室(事務用机竝就寢装置ヲ有ス)ヲ設ケ鳩ノ觀察ト夜間見張ニ備フ(第六圖参照)
- (ハ) 鳩室内ハ成ル可ク簡單整正ニシテ散歩台ハ豊富ニ巢房ハ雛ノ育成ニ支障ナキ程度ニ小型トナシテ下方ニ局限シ以テ夜間ニ於ケル鳩ノ運動ニ便ナラシム(蕃殖ニ重點ヲ置カス)
- (ニ) 室内ニ點燈設備ヲナシ且ツ光力調整装置ヲ施ス(シ尚燭力ノ相異ナル二燈(一燈ハ十六燭一燈ハ五燭トスルカ如シ)ヲ準備シ必要ニ應ジテ點燈スルモ可ナリコレ燈光ハ夜間採食・捕鳩・觀察・點檢又ハ入舎鳩ヲシテ自己ノ棲息所ニ就カシムルタメニ必要ナレトモ採食事ノ

外ハ成ルヘク低燭ノ燈光ヲ點スルヲ可トス蓋シ皓々タル
燈光ハ鳩ノ安眠ヲ害スル虞アレハナリ

(ホ) 換氣裝置ハ採光裝置ト共ニ夜間鳩舎ノ生命トモ称
スヘキ最モ重要ナル事項ニシテ明暗裝置ヲ閉シタ
ルトキト雖モ尚通風換氣ハ良好ノ状態ニアルヲ要ス
殊ニ夏季明暗裝置ヲ閉シタルトキハ室内温度上昇
スルヲ以テ特種ノ通風裝置(錠窓通風筒等)ヲ設
クル外鳩舎扉ノ如キモ金網式ノモノニ轉換シ得ル
裝置ヲ必要トス(第三六八圖参照)

(ハ) 晝間室内ヲ明暗自在ナラシムルタメ特種明暗裝置
ヲ設クコトノ裝置ニ夜間鳩舎獨特ノモノニシテモ
舎内側ニ裝備スルモ或ハ外側ニ裝備スルモ敢テ差支
ナキモ取扱上一部ハ内部ニ一部ハ外部ニ裝備スルヲ

(ト) 便利トス明暗装置ニ就キ特ニ付言スレハ本装置ノ
 効用ハ晝間必要ニ應シ之ヲ閉シテ夜間ニ擬シ鳩ニ
 休養ヲ與フルニアリ故ニ單ニ暗黒化ノミニ捉ハレテ通
 風換氣ヲ忽ニスルコトアラハ其効果ヲ低下スルノミナ
 ラス時々之カ爲メ甚シク健康上ノ障害ヲ招クコ
 トアリ故ニ本装置ハ之ヲ閉シタルトキト雖モ充分通
 風換氣ノ途ヲ構スルヲ要ス從テ明暗度ハ際々懸
 念スルヲ要セス薄闇程度ニテ可ナリ(但シ直入光線
 ヲ防クヲ要ス) 若シ夫レ暗黒思其モノニ對スル慣習ハ
 敢テ之ヲ晝間ニ求ムルヲ要ナリ日々籠ヒ來ル夜
 間ヲ利用スレハ事足レリトス(第三、八圖参照)
 鳩舎外部ハ成ルヘク突出物ヲ除去シ暗夜ニ於ケル衝
 突ヲ防キ鳩ノ發着ヲ容易ナラシム

(4) 到着台ハ屋根、下部ニ近ク之ヲ設ケ且其型ヲ一層擴大シ歸舎鳩ノ大部分ハ屋上ニ下ルコトナク直接到着台上ニ降着セシムコレ入舎ノ巧妙ヲ促スノミナラス到着台上ニハ室内ノ燈光反映シテ鳩ノ降着モ容易ナレハナリ

(註)

實驗上通信鳩舎ノ到着台ハ大型ナルヲ良シトスルモ限度ヲ越エテ大型トナストキハ入舎ヲ不良ナラシムル虞アリ

(11) 「トラップ」ハ夜間之ニ鳩ヲ導キ易カラシムルタメ其外方到着台上左右兩斜前ニ傾斜大ナル箱式縱板(上部ニ鳩ノ棲ルヲ許サス)ヲ以テ之ヲ圍ミ且ワ成シ得レバ電鐘裝置ヲ施シ之ヲ鳩兵控室ニ導クヲ可トス

(又) 鳩舎外部ハ夜間最モ發見容易ナル塗色ヲ施スヲ
要ス 到着台上面ニアリテハ殊ニ然リトス
其他ハ諸裝置ハ一般鳩舎ニ準ス

三 訓練

本訓練ハ大体三期ニ分テ之ヲ行フ (別表参照)

第一期 基礎訓練 (暮曉飛翔訓練)

(1) 春季 (四月前後) 最好時機トスニ於テ健康特ニ
優レタル幼鳩ヲ移殖シ馴致完成セハ飛翔力ニ
應分シテ規定ノ舍外飛翔ヲ課シ且ツ朝夕ノ
舍外飛翔ヲ漸進的ニ日没後、日出前等ニ及ホシ
斯クシテ移殖後約一ヶ月ニシテ初夜ニ於テ團結
シテ克ク四十分間以上連續上空飛翔ヲナスニ至
リテ完了ス又コノ期間ニ於テ周圍少ナクモ十軒

以上晝間放鳩訓練ヲ行フモノトス

(四) 移殖スヘキ幼鳩ハ生後一ヶ月乃至三ヶ月ノモノヲ
 最適當トス。生後六ヶ月以上ヲ經タルモノニテモ二
 歳鳩附近ヲテハ能ク夜間鳩タラシメ得ルモ馴致
 二日時ヲ要シ且ツ二歳鳩以上ハ夜間鳩トシテノ
 制限年齢ニ近ワクラ以テ適良ナラス。實驗上
 既訓練鳩ノ年齢別ニ依ル夜間歸巢成績ハ二
 歳鳩最モ優レ三歳鳩之ニ次ギ幼鳩ハ三歳鳩ニ
 劣リ而シテ四歳以上ノモノハ夜間鳩トシテ体力上
 過重ナル負荷ニ適セサルノミナラス實際上其殘
 存スルモノ甚少ナリ故ニ四歳以上ノ夜間鳩ハコ
 レヲ晝間鳩舎ニ移殖シ寧ろ蕃殖鳩トシテ使用
 スルヲ得策トス蓋シ此ハ鳩ハ數年ニ亘リ能ク數百

回ノ晝夜放鳩ニ耐ヘ最モ卓越セル能力ヲ保持
ル貴重ナル鳩ナレハナリ

(註)

昭和七年十月横須賀防備隊飼育中ノ當年三歳ノ夜間鳩
B九八號(昭和七年七月東京白水屋ニ於ケル全國鳩展
覽會及同年十月學習院ニ於ケル鳩展覽會ニ出品セル優
秀鳩)ニ就テ飛翔記録ヲ調査セルニ夜間放鳩ノミニテモ
三四ニ及ビ此ノ延距離七三〇。新ニ達セリ更ニ晝間放鳩ヲ加
フルトキハ一層大ナル數字ヲ示スヘク之ニ依テ見ルモ夜間鳩ガ一
般晝間鳩ニ比シ如何ニ過重ナル負荷ニ耐ヘワ、アルカラ想像シ
得ヘク從テ四歳以上ノ夜間鳩ノ存在スルモノ極メテ僅カニシテ
且ツ貴重ナル亦宜ナリト云フヘシ

(ハ) 最初鳩ヲ移殖スルニ當リテハ不適鳩(大部ハ健康
上)ノ淘汰ヲ見越シテ強ク是鳩數ノ約二割ヲ増
殖スルヲ可トス

(1) 第一期基礎訓練完了後引續キ行フ訓練ニレ
 テ夜間ニ於ケル方向判定並ニ歸還飛翔ヲ容易
 ナラシメテ翌朝歸舎ノ悪習慣ヲ付セザランカ爲
 先一軒附近ノ極メテ近距離ヨリ放鳩ヲ開始シ
 且ハ初期訓練ニアリテハ努メテ夜間放鳩豫定
 地點又ハ其附近ニ於テ晝間放鳩ヲナシテ再
 ヒ鳩ヲ豫定地點ニ輸送シテ夜間放鳩(初期ニ
 アリテハ薄暮放鳩ヨリ漸進スヘシ)ヲ行ヒ漸クシテ
 二十軒附近ノ周圍ヨリ放鳩終ラハ必要ニ應ジ決
 定方向ニ對シ距離ノ躍進ヲナスト共ニ漸次放
 鳩時刻ヲモ変動シ遂ニ深夜ニ及ボスモノトス
 又此ノ期間ニ於ケル夜間舎外飛翔ハ放鳩訓

(四) 本訓練ニ於ケル放鳩躍進度、毎回成績ヲ調査シ且ツ地勢、天候、明暗度等ヲ考慮シテ適宜按配スヘキモノナレトモ大凡晝間固是鳩舎ニ於ケルモノ、7/10附近ニ縮少スルヲ適當トス

(ハ) 本期訓練開始時期ヨリ明暗装置ニ依リ日中一部ヲ薄闇トナシ鳩ニ休養ヲ與フ

明暗装置ヲ閉ス期間ハ季節並気温ノ高低、夜間訓練ノ程度等ニ依リ差異アルモ概ネ左記ニ據ルヘシ

練ニ順應シテ漸次其歩ヲ進メ且ツ晝間舍外飛翔ニ於テモ能ク連續ニ時間以上飛翔セシムルニ至リ茲ニ始メテ其目的ヲ達成シ而シテ其理想タル晝夜間通信ニ應シ得ルニ至ルモノナリ

溫暖季節ハ正午前後トシニ時間乃至三時間
酷暑季節ハ朝夕、涼シキ時機ヲ選ミテ一時間乃至三時間

(二) 酷暑季節ハ適宜ノ時機ニ於テ一時間乃至二時間
夜間放鳩、際ハ努メテ燈火並障害物ヲ避ケ且ツ

展望良好ナル位置ヲ選ミ鳩ヲ擲ミテ上方ニ放

揚スルヲ可トス

(ホ) 航空機上ニ於ケル夜間放鳩ニハ尾翼緊張線
及推進ヨリ起ル射流等ニ對シ一段ノ注意ヲ要

ス

(ハ) 夜間放鳩ヲ實施セントスルニ當リテハ尤モ其附
近ニ於テ晝間放鳩ヲナシ地理ヲ熟知セシメ然
ル後實施スルヲ建前トスレトモ狀況ニヨリ晝夜續

行飛翔ニ依ル躍進訓練ヲモ成シ得ルモノトス此ノ
 場合躍進地ニ於ケル放鳩時刻ハ概テ前回放
 鳩地附近迄飛翔シタルトキ日没トナルカ若クハ
 未月放鳩トナス如ク適宜放鳩時刻ヲ按配スル
 コト所要ナリ、蓋シ夜間放鳩ト雖夜間放鳩ノ
 ミニ依ル躍進訓練ハ亦看鳩續出シ惡癖ヲ
 付スルノミナラス過度ノ失踪鳩ヲ出ス惧アレハ
 ナリ、鳩ハ頗ル習慣性ニ富ムモノナリハ惡癖ヲ付
 セサルコトニ對シテハ深甚ノ注意ヲ要ス
 (ト)晝間放鳩訓練ハ或ルヘク午後(時々夕刻)實施ス
 ル可トス是レ午後(殊ニ夕刻放鳩ニ於テ)ノ歸
 巢成績ハ一般ニ午前(殊ニ早朝)ノソレニ劣ルコ
 ト既往成績ノ明カニ示ス處ニレテ夜間鳩養成

上特ニ留意ヲ要ス

(註)

記録約ニハ午前、放鳩ス、實際約ニハ午後、放鳩ヲ起シメ

(4) 夜間放鳩ノ際ハ必ズ明暗度ヲ觀察シテヲ記録スルヲ要ス、明暗度ハ概感的ノモノニシテ未ダ計器ヲ使用シテ觀測スルニ至ラサルヲ以テ因感ニヨリ概ネ之ヲ五等分シ最モ明ルキ夜即チ晴天ノ月夜ヲ一トシ最モ暗キ夜即チ曇天以上曇キ暗夜ヲ五トシ以下其程度ニ應ジ適定之ヲ區分ス

(7) 實績ニ徴スルニ夜間ノ歸巢成績ハ暗夜ニ於テハ遙カニ月夜ノソレニ劣ルコト明カナリ故ニ初

(又) 期ニ於ケル深夜放鳩ハ先以テ月明時ニ於テ行
ヒ次第ニ暗夜ニ及ホス如ク行フヲ可トス
晝夜續行飛翔ニアリテハ夜(未明)ヨリ晝ヘ
ノ成績ハ一般ニ晝(夕刻)ヨリ夜ヘノ成績ニ優
ルモノナリ

(九) 訓練進行スルニ從ヒ晝間ノ舍外飛翔ハ小雨
雪、強風等ニ於テモ之ヲ課シ次ニ放鳩訓練
ニ及ホシ以テ鳩ノ抵抗力ヲ涵養スルヲ共ニ
間接ニ夜間ノ歸巢性ヲ測長セシム

(註)

午後放鳩並晝ハ訓練ハ一般通夜鳩舎(晝
夜間鳩舎共)ニ於テ是非共賦課スルヲ主ニ
事項ナリ

(三) 障害物避行練習ノ目的ヲ以テ晝間時々架空線其他障害物下ノ放鳩訓練ヲ實施スルヲ可トス

(四) 夜間活動性ヲ誘起スルタメ給餌ノ一部(概日量ノ $\frac{1}{3}$)ヲ夜間ニ給ス

第三期 蕃殖並保能訓練

(一) 第三期訓練ハ九月十一月ヲ以テ之ヲ終リ十二月ニ至ラハ蕃殖準備ニ移リ他鳩舎ニ先ンシテ交配ヲ行ヒ育雛ハ一番仔ノ集立ヲ以テ切上クルヲ可トス此レ夜間鳩ハ晝夜大ニ活動シ強ヒラセテ晝間鳩ニ比シ負荷一層大ナルヲ以テ之ヲ緩和策トシテ蕃殖ヲ制限シ以テ蕃殖ヨリ来ル疲勞ヲ輕減セントスルガ故ナリ蕃殖期

- (四) 夜間鳩ノ雌雄ノ分離期間ハ晝間鳩ニ比シ稍短縮スルコトヲ得コレ蕃殖制限ヨリ來ル生殖慾保持ノ利用ニ因ルナリ
- (ハ) 二歳鳩ヲ補充シテ夜間鳩ヲラシメントスル場合ハ交配時ヲ利用スルヲ最適當トス
- (ニ) 夜間鳩ヲシテ特ニ早期ニ交配ヲ行フ所以ハ蕃殖ヲ早メ而シテ翌年度ノ訓練開始ニ當リ難ハ已ニ策立シ親鳩ニハ体力ヲ恢復セシメントスル外更ニ一面ニ於テハ晝間鳩舍ト
- 間ニ於テモ必來得ル限リ晝夜舍外飛翔(夜間舍外飛翔)際現ニ抱卵中ノ鳩ヲ追ヒ立テサルモノトス)並放鳩訓練ヲ課シ以テ能力保持ニ努ムルモノトス

（附）夜間鳩訓練計畫表（昭和七年度橫防訓練計畫表）
第一期基礎訓練

同時支配ヲ避ケ日帯ノ通信ニ支障ナカラシメントスルリタメナリ 故ニ飼育地ノ氣候其他情況ニ依リテハ自ラ屬隨時機ニ差異アルコトヲ記憶スルヲ要ス

0491

18 17	16 15 14 13 12	11 10 9 8 7	1
20 19	18 17 16 15 14	13 12 11 10 9	2
自日出五十分前 至日出十分前 舍外飛翔	自日出四十分前 至日出十分前 舍外飛翔	自日出三十分前 至日出十分前 舍外飛翔	
全 三十分乃至 四十分 間	全 二十分乃至 三十分 間 同團 一科乃至二科 隊鳩	全 十分乃至 二十分 間	
自日没三十分後 至日没一時間後 全	自日没十分後 至日没四十分後 全	自日没時 至二十分後 全	
		以後夕食點燈下 行	

月	旬	第 二 期	20 19	21 22 23 24	25 26 27 28
合外飛翔	朝	放鷹	○		☾
合	晝	訓練	同園 三時七時放鷹	合 上 日没一時間前 全日出一時間 同園 放鷹	合外飛翔 日没一時間前 全日出一時間 同園 放鷹
上	夜			合 上 日没一分後より 四十分間	合 上 日没五十分後より 三十分間
摘要				不適鳩、隨時淘汰	

五	六	七	
上	中 下	上 下	
自日出一時間十分前 至日出 十分前 舍外飛翔 自日出一時間十分前 一時間	舍外飛翔 自日出一時間十分前 一時間	舍外飛翔 自日出一時間十分前 一時間 自日出一時間十分前 一時間 自日出一時間十分前 一時間	舍外飛翔
一時間 一軒乃至二十軒放鳩	一時間十分 十軒乃至三十軒放鳩	一時間十分 十軒乃至三十軒放鳩	一時間十分 十軒乃至三十軒放鳩
自日没一時間後一時間 一軒乃至五軒放鳩	自日没一時間十分後 一時間 七軒乃至二十軒放鳩	自日没一時間十分後 一時間 二十軒乃至四十軒放鳩	自日没一時間十分後 一時間 四十軒乃至六十軒放鳩
以後明暗装置 フ使用ス			

二	九	八	
下 中 上	下 中 上	下 中 上	下 中
舍外飛翔 時刻不定 三十分乃至二時間	舍外飛翔 白日出二時間乃至三時間前 二十分乃至一時間三十分	舍外飛翔 白日出二時間乃至三時間前 二十分乃至一時間三十分	白日出二時間乃至三時間前 二十分乃至一時間三十分
合 一時間乃至二時間 五十斤乃至二百斤放鳩	合 一時間乃至二時間 五十斤乃至二百斤放鳩	合 一時間乃至二時間 五十斤乃至二百斤放鳩	一時間三十分乃至二時間 七十斤乃至二百斤放鳩
合 時刻不定 三十分乃至一時間三十分 百斤以内放鳩	合 白日出二時間乃至三時間 後三十分乃至一時間三十分 百斤以内放鳩	合 白日出二時間乃至三時間 後三十分乃至一時間三十分 百斤以内放鳩	白日出二時間後 一時間三十分 六十斤乃至八十斤放鳩
	昼間ヨリ夜間へ 夜間ヨリ昼間へ 等 於此訓練施行	酷暑粒模羽三注 意ニテ訓練ヲ行フ	

第三期 保能訓練

第二期訓練ニ於ケル成績ヲ審査シニ蕃殖ニ適スルモ
ハヲ選擇シ十二月上旬雌雄分離ヲ行ヒ同月下旬
ヲ交配シ蕃殖ニ移ル蕃殖期間中ト雖モ出來得
ル限り晝夜間復習訓練ヲ行ヒ能力保持ニ努ム
ルモノトス

備考

- (一) 夜間鳩養成ニ際シテハ特ニ衛生ニ注意シ健
康上夜間鳩トシテ不適ト認ムルモノハ之ヲ淘
汰シ晝間鳩舎ニ編入ス
- (二) 通信能力増進ノ爲晝間ノ訓練ハ相當荒天
時ニ於テモ實施スヘシ
- (三) 夜間飛翔ヲ怠ル鳩ノ矯正ニハ時々近距離ノ

附 夜間鳩舎畧圖

(四) 夜間海上放鳩ヲ課スルヲ可トス
 夜間舎外飛翔ハ薄暮及黎明ヨリ各深更ニ
 向テ進行スルモノナルヲ午後十時及午前三時
 ニ達シタルトキハ一夜ニ双方ヲ實施スルコトナク
 適宜交互ニ施行スルモノトス